

05. 誰もが参加できる余暇活動

活動分野	文化芸術 健康・スポーツ	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的・精神・発達	年齢	65歳未満
活動地域	愛知県 丹羽郡大口町	実施主体 【任意団体】	名 称:愛知県大口町 NPO 登録団体 SHIP おおぐち 住 所:愛知県丹羽郡大口町 電 話:090-8472-8882 URL :http://www.2.bbweb-arena.com/ship/index.html		

活動概要

障害のある人を中心に余暇の教室を作り、障害のある人とない人が一緒に何かをすることで交流を図るとともに、触れ合うことで自然に障害を理解してもらおう。

< 活動内容 >

和太鼓クラブ・・・毎月第3土曜日 参加者:障害のある人 15名程度、障害のない人 10名程度
会費(年間):会員 9000円 一般 12000円

パン教室……………年5回 参加者:障害のある人 10名程度、障害のない人 13名程度
会費:1回 会員 1300円 一般 1500円

体操教室……………年3回 参加者:障害のある人5名程度、障害のない人5名程度
会費:1回 500円

エアロビクス・・・毎月第2水曜日 参加者:障害のある人4名程度、障害のない人5名程度
会費:1回 会員 500円 一般 750円

活動を始めた背景・経緯

SHIP おおぐちは、障害のある人の親とその支援者が中心となって立ち上げたものである。

障害があると学校や仕事場・作業所と家との往復だけで、余暇を楽しむ、どこかへ出かけるということが困難である。一般の障害のない人たちの中に入り、参加することが難しいのであれば、障害のある人を中心に余暇の教室を作り、そこに障害のない人たちにも来てもらおうということで始めたものである。

多くの楽しみを提供しようと、現在は4つの余暇活動を企画運営している。



活動目的

講師も含めて、障害のある人とかわりを持ち、余暇活動を楽しみながら地域交流することで、偏見をなくしていくことを目的としている。

活動の成果又は効果

どの活動も5年ほど続いているため、いろいろな面で進歩がみられる。

太鼓の場合、発表の場に出ることもできなかった子が舞台上で打つことができるようになったり、パン教室などでは、一緒に参加する人たちが慣れてきて、自然に話をするできるようになってきた。

活動を継続する上で工夫した点

- ・和太鼓クラブは、指導者が言語聴覚士であるため、障害のある人への対応は、個々の特性に応じて、少しずつ能力を伸ばすよう指導している。障害のない人へは、関わり方を自然に学ぶものとなっている。
- ・そのほかのパン教室、体操教室、エアロビクスは、地域の方に講師をお願いしている。
- ・講師の先生方に、ボランティアをさせない。年間通して対応していただくために、予定を立て、講師料をきちんと支払いしている。
- ・会報やチラシを作り、会員や地域の障害者団体に配布している。
- ・発表の場を設け、地域の方々に知ってもらう機会を作っている。
- ・年に1、2回無料体験を行い、どんなものなのか知ってもらう。

活動を継続する上での課題

余暇活動に参加する人が固定化してきている。

障害のある人たちは、余暇活動への参加・不参加の決定権が、保護者にある場合が多く、保護者に意識がないと、余暇活動に参加できない。



共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

障害のある人をとりまく環境の中でも、とくに『人』が重要と考えている。

今後も、障害に対する意識啓発になるような活動を行いたいと考えており、余暇活動の他に、現在もキャラバン隊で公演を行ったり、発達障害のある児童の集団療育を行っている。

今後も、『人』に働きかけるようなことを中心に行っていきたい。

実施体制

スタッフも参加者として参加。各教室2、3人程度
年間活動経費：345,000円(2008年)

キーワード

地域交流、余暇活動



06. 夢のバリアフリーミュージカル

活動分野	文化芸術	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的	年齢	65歳未満
活動地域	三重県	実施主体 【任意団体】	名称:人情集団「An-Pon-Tan」 住所:三重県鈴鹿市稲生2丁目4-15 電話:090-9129-4174 URL : http://www5e.biglobe.ne.jp/~anpontan/		

活動概要

障害のある人とない人とが一体となり舞台の上で共に演じる、オリジナル脚本による「夢のバリアフリーミュージカル」を上演している。2000年に団体を立ち上げて以降、鈴鹿、津、名古屋と活動の場を広げ、それぞれの公演で多くの観客の感動を呼び、大成功を収めてきた。

団体名「An-Pon-Tan」(あんぼんたん)とは、既成概念を持たない真っ白な頭(あんぼんたん)で、自由な発想で行動していこうと付けた名前である。年齢も職業も障害の種類も様々な人たちが集い、役者として、舞台スタッフとして、またそれらを支える運営スタッフとして、一緒にひとつのミュージカルを創り上げている。



活動を始めた背景・経緯

団体代表が、大学の卒業記念に上演したミュージカル「ピーターパン」の話を知り合いの車椅子の女の子にしたところ、その子が目を輝かせ、「私も舞台に立ってみたい。」という言葉を出した。

「できないんじゃない、チャンスがないだけ。最初からあきらめてしまっはいけない。一緒に夢を叶えたい。」

そういう思いから、2000年1月に、この人情集団「An-Pon-Tan」を立ち上げ、「夢のバリアフリーミュージカル」を企画した。

そして、三重県全域に新聞などで募集をかけ、多くの障害のある人やない人が参加して第一回目の公演に至った。

活動目的

- ・障害のある人とない人が舞台の上で共に輝ける「夢のバリアフリーミュージカル」を上演する。
- ・障害のある人が、地域で普通に生活できるようになるため、ミュージカルを通じて、障害のある人とない人がお互いの偏見をなくし、フラットな気持ちで向かい合えるようになること。
- ・障害のある人が、「出演する」、「舞台を観る」、「舞台の話を書く」ことにより、障害があっても「やればできる」という自信と夢を持つこと。



活動の成果又は効果

2000年1月 団体立上げ

2001年8月 鈴鹿市民会館にて「ゆめのたね」上演

観客数約 2,300 人

反響大きく、入団希望者が増える。

2003年10月 鈴鹿市民会館及び三重県総合文化センターにて「ねえ、きこえた？」上演

観客数約 5,000 人

2006年2、3月 鈴鹿市民会館及び名古屋市民会館にて「虹色の翼」上演

観客数約 5,800 人

名古屋市にも進出し、満席の観客を集める。

2009年8、9月 三重県縦断公演を実施し、松阪市、伊賀市、鈴鹿市及び桑名市の各市民会館にて

「ゆめのたね～君と一緒に～」上演

各地で満席となり、好評を博す。

障害の有無に関わらず団員の活動継続意思は極めて高い。

活動を継続する上で工夫した点

- ・団体の仕組み作りから、資金調達(フリーマーケットや協賛金募集等)、広報活動、脚本作成、作詞作曲、演奏、編集、振付、舞台装置作りや衣装製作など、できること全てを自分たちの手で行っている。
- ・始めたばかりの頃は、障害のある人と関わった経験のある人がなく、状況に応じて対応していたが、点字チーム(視覚障害対応)や手話チーム(聴覚障害対応)などが結成されて、よりスムーズな対応が行えるようになった。
- ・障害のある人、ない人それぞれに合った役作り、すなわち脚本作りに最も工夫を要する。
- ・「障害のある人はやはりこの程度か」と思われたくないで、気合を入れ練習をしっかりとやっている。ただし、あくまで「楽しむこと」が全ての基本である。

活動を継続する上での課題

・福祉の要素を強くしないこと

障害のある人のためにという思いが強いと単なる福祉行事になってしまい面白くなってしまう。障害のある人もない人も全員が楽しめるようにすることを、いつも念頭に置いている。

・練習会場の確保

ミュージカルの練習には広い会場が必要であり、交通の便や費用などで困難が多い。最近では倉庫を借りて活動している。



・エネルギーの充電

団体事務局にとって公演に至るまでには多大なエネルギーを要するため、公演後には精力・気力の落ち込みが激しく、次のステップに進むには充電期間が必要である。現在は1、2年を充電期間とし、その間は花見や旅行などのイベントを行っている。

・状況に応じた配慮

やればやる程欲が出るため、練習がどんどん激しくなっていく。ただし、障害のある人が練習についていくのは大変であるため、場合により個人練習なども行っている。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

・全国規模の団員募集と全国公演の実施

現在は三重県内を中心とした団員構成である。今後、出来れば全国にネットワークを作り、全国の障害のある人を集めたミュージカルを実現したい。障害のある人にもそれぞれ得意な分野があり、ネットワークを広げることにより、様々な得意分野を持つ人を集めたい。

また、全国のミュージカルや舞台をやってみたいと思う障害のある人たちや障害のある人との共生を志している人たちと広く連携していきたいと考えている。

・海外公演の実現

海外公演も行ってみたい。夢はブロードウェイ公演である。

実施体制

団員数 110 人(内、障害のある人 50 人)

事務局員 15 人(代表含む)

公演時:出演演者 90 人程度、裏方 20 人程度

会費 1,500 円 / 月。練習場や公演場所への交通費は自己負担。

活動費は会費の他、企業や福祉関連団体などからの協賛金、寄付金(赤い羽根募金など)及びチケット収入で賄っている。

練習は、週1回で始まり、公演の半年前からは週2回、公演3ヵ月前からは週3回実施している。



キーワード

ミュージカル、バリアフリー、やればできる

07. 表現活動ワークショップと糸賀一雄記念賞音楽祭

活動分野	文化芸術	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的・精神・発達	年齢	全年齢
活動地域	滋賀県	実施主体 【社会福祉法人】	名称: 社会福祉法人 滋賀県社会福祉事業団 住所: 滋賀県近江八幡市桜宮町 235 電話: 0748-31-2481 fax: 0748-31-2482 URL : http://www.hukusi-shiga.net/jigyoudan/		

活動概要

「表現活動ワークショップ」の実施

滋賀県内7ヶ所において、障害のある人を対象に、音楽表現(うた・リズム・打楽器演奏)、身体表現(ダンス)のワークショップを月2回のペースで年間通して行っている。

国内外で活躍している音楽やダンスの専門家をナビゲーター、サポーターとして招き、障害のある人たちの内面の奥底にあるエネルギー溢れる表現の力を引き出しつつ、自由にかつ楽しく、毎回のプログラムを実践している。



糸賀一雄記念賞音楽祭の開催

上記の表現活動ワークショップの成果発表の場として、毎年11月に開催しており、今年で8回目を迎えた。

それぞれのワークショップで行っている表現活動を毎回様々なテーマで構成を練り上げ、障害のある人たちがエンパワーメントできる舞台を、県内の文化関係者、演奏家、ダンサー、劇場関係者などと創り上げている。

また、ワークショップに参加している障害のある人と滋賀県内の小・中学生でつくる「さくらジュニアオーケストラ・アカデミー」との共演など、障害のある人とない人が一緒に舞台上に立ちパフォーマンスを行った。



活動を始めた背景・経緯

音楽や文化活動に参加する機会の少ない障害のある人たちに対して、住み慣れた地域で気軽に参加できる場作りとして、そして、福祉関係者だけで行うような枠の狭い取組みでなく、障害の有無に関わらず、専門家から地域の住民まで誰もが音楽やダンスといった文化活動(表現活動)を実施し、県民全体で楽しむことができるような場としてワークショップを開催した。

活動目的

障害の有無や様々な境界を取り除き、誰もが参加できる場を作る。そこでは、「上手に歌う」「きれいな演奏をする」「上手な振り付けで踊る」といったことではなく、それぞれの内面からほとぼしる感情やエネルギーを自由に発散できる環境を整え、様々な人たちが参加でき、＜共に生きる＞というメッセージを観る人、関わる人たちに伝えていき、お互いの存在を確認しあえる場を目指している。

活動の成果又は効果

2001年度からスタートして、これまでにのべ1000人を超える人たちが音楽祭に出演し、同等数の人たちがワークショップにも参加してきた。

ナビゲーターやサポーターも年々増えてきており、その裾野が広がってきている。表現内容自体も継続の中から障害の有無をこえて年々高まってきている。参加者本人たちの内面での変化・成長がとても感じられ、協力してくれている施設、団体の意識も変わってきている。

活動を継続する上で工夫した点

事業に係る財源の確保は言うまでもなく、民間助成を活用しながら実施してきた。また、地域の中での取組みとして位置づけていくことを目標としているために、参加している施設などの参加職員の意識を付添いとしての意識から参加者としての意識に変革するように、各ワークショップを開催する上で実施者と心がけてきた。このことがこれまで継続してこられた大きな要因であると考えている。

活動を継続する上での課題

財源の確保。地域の意識の向上。ナビゲーター、サポーターのスキルアップ。

共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

現状では現在取り組んでいることの継続とさらなる向上が、新しい地域社会に影響を及ぼし、社会を変えていく一つの要素となるように実践していく。



実施体制

表現活動ワークショップ

各圏域の参加施設等との連携により実施。

糸賀一雄記念賞音楽祭

県内音楽関係3団体、障害福祉関係6団体との協力関係の下、当日の運営には100名近くのスタッフで障害のある人たちの表現活動を支えている。

キーワード

自己表現、自己実現

その他

障害のある人たちの表現活動として、絵画や陶芸などの視覚芸術(ビジュアルアーツ)が国内外で高く評価されてきた一方で、舞台等での音楽やダンス、演劇といった実演芸術(パフォーマンスアーツ)においても評価が高まっている。このことをもっと広げていきたいと感じている。

08. こうべ障害者音楽フェア

活動分野	文化芸術	活動に参加している障害者			
		障害種別	身体・知的・その他	年齢	全年齢
活動地域	兵庫県神戸市	実施主体 【社会福祉 協議会】	名 称:神戸市社会福祉協議会 住 所:兵庫県神戸市中央区磯上通3 - 1 - 32 電 話:078-271-5330 fax:078-271-5367 URL :http://www.kobesad.jp		

活動概要

市内でコーラス、演奏、太鼓等音楽活動をしている障害者福祉施設や障害者サークル等団体が出演するコンサートを年1回12月23日(祝)に開催している。

当日は、障害のある人たちが障害のない人たちと一緒に活動しているサークルなど音楽団体5、6団体が出演し、また、特別出演として、神戸市又は関西地域にて活動しているプロの音楽関係者が参加した。

2009年には、市内に住む、阪神大震災(95年)による震災障害のある人とその家族ら約10人を初めて招待し、孤立しがちな震災障害のある人同士や障害のない人たちとの交流のきっかけ作りをすることができた。



活動を始めた背景・経緯

障害のある人の社会参加の促進、いきがい、豊かな生活支援という目的のために文化事業展開が必要であり、「神戸市障害者保健福祉計画2010後期計画」の中でも、その必要性が述べられている。

活動目的

障害のある人が日頃から活動している音楽活動等に焦点をあて、その発表の場を設け、障害のない人も参加して、交流の輪を広げることにより、障害のある人の理解につなげていく。また、障害のある人の文化活動の質の向上も目指していく。

活動の成果又は効果

障害のある人もない人もともに発表の場を得ることにより、日頃の練習成果を発揮できるとともに、これを鑑賞した障害のある人が楽しみ、自分もやってみようというきっかけを与えることができた。また、障害のない人が鑑賞することにより、障害への理解にもつながった。

活動を継続する上で工夫した点

年1回開催の行事であるが、同じ出演者が連続することがないように、毎回違う出演者を選んだ。
また、予算確保、出演者のレベルの維持及びステータスのため有料で開催している。

活動を継続する上での課題

予算確保と、音楽活動を行っている障害者施設、団体等で一定のレベルの団体数が限られていることが課題である。

今後、音楽活動等を行う団体等が増えていくことが望まれる。



共生社会実践活動として今後予定しているもの又は実施してみたいもの

2009年に、震災障害のある人とその家族らを招待し、孤立しがちな震災障害のある人同士や障害のない人たちとの交流のきっかけ作りをすることができたが、今後の継続的な交流へとつなげていきたいと考えている。

実施体制

スタッフ:有給スタッフ 4人(常勤)、1人(非常勤)
ボランティアスタッフ 20人
経費:約 200万円

キーワード

音楽

